

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4678600125
法人名	社会福祉法人 潤生会
事業所名	グループホームひまわり
訪問調査日	平成19年8月3日
評価確定日	平成19年11月27日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について
外部評価は30項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果報告概要表

作成日 2007年8月4日

【評価実施概要】

事業所番号	第4678600125号
法人名	社会福祉法人 潤生会
事業所名	グループホームひまわり
所在地	鹿児島県大島郡瀬戸内町大字古仁屋字瀬久井原西8番地3 (電 話) 0997-73-1311

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市下荒田二丁目48番13号
訪問調査日	平成19年8月3日

【情報提供票より】(19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月14日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 10 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円		その他の経費(月額)	3,000 円	
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 1,000 円				

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.8 歳	最低 79 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いずはら医院、瀬戸内町へき地診療所、瀬戸内徳洲会病院、ア歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体の社会福祉法人によって一連の地域サービスの中に位置づけられたホームである。明るく広々としたホールと、各居室には洗面所とトイレが整備されており、利用者の個別性と個性ある生活の基盤ができています。利用者は、暖かく優しい職員に支えられながら、食事の下ごしらえや、掃除、手作業や趣味の活動など役割感を持って生活している。職員はともかくこのホームや利用者が好きで、勤務時間以外にも出かけてきて交流をするなど愛着感を持っている人が多い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念を重要事項説明書に掲載するには至っていないが、市町村との連携は密にとられている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	評価を実施する意義については、およそ解っているが勤務の都合上、一部の職員で自己評価に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議は定期的に開催し、会議で出された地域防災会議への加入の提言などできるものから実践し、サービスの向上に活かしている。一方、地域から災害時の緊急避難所として、ホームへの期待があり、その指定も受けている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	家族等は職員に気軽に話しかけ、日常的な会話のなかで「食事にミルクもだすように…」など要望や意見を交わし、ホーム側も実現に取り組んでいる。家族会の結成が望まれる。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の自治会に加入し、子供会の行事や夏祭りなどにも参加している。地域の人や利用者の家族等が野菜や薬草を持って訪ねて来たり、島唄のボランティアが来演するなど交流がもたれている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人と同じ「温もりと安らぎと明るさをモットーに、その人らしい生活の場で喜びと生きがいを求めて行きま	○	地域密着型サービスとしての特性を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげることが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に理念を読みあい、管理者からも実践に向けて助言し、取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、子供会の行事や夏祭りなどにも参加している。地域の人や入居者の家族等が野菜や薬草を持って訪ねて来たり、島唄のボランティアが来演するなど交流がもたれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施する意義については、およそ分かっているが勤務の都合上、全員で自己評価に取り組むまでには至っていない。しかし、自己評価・外部評価共にホーム内の掲示だけでなく、家族にも送付し、評価に対する意識を家族と共有し改善への取り組みはしている。	○	事業所独自の理念の作成と家族等への周知など評価結果に対する取り組みの推進が求められる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行われ、会議で出された地域防災会議への加入の提言などできるものから実践し、サービスの向上に活かしている。一方、地域から災害時の緊急避難所として、ホームへの期待があり、その指定も受けている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の他に、解決困難な事例の相談や、介護度の変更についての相談など連携をとり、入居者への継続性のあるサービスの提供等に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りは発行していないが、毎月個別に利用者の状況を写真やメモなどで知らせている。通信メモがやや抽象的でせっかくのいろいろな支援の様子や、利用者の細やかな活動の姿が家族に伝わり難い。	○	来所する家族は利用者の日常の状況もよく理解できるが、ホームにこれない家族などにも情報提供について、工夫することが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等は職員に気軽に話しかけ、日常的な会話のなかで「食事にミルクもだすように…」など要望や意見を交わし、ホーム側も実現に取り組んでいる。家族会の結成はなされていない。	○	家族会の結成が待たれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動(退職)があり、入れ替りがあった。できるだけ馴染みの関係を保てるような引継ぎなどで利用者への負担がかからないように配慮した。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会に参加したり、大島地区グループホーム協会の研修に参加したり、事業所内研修も実施しているが、計画的参加・計画的実施までには至っていない。	○	年間の研修計画を立てて、主体的に目的に沿った研修を実施して、職員の育成に努めることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大島地区グループホーム協会の研修に参加したり、グループホーム間での職員交換研修計画もあり、質の向上への動きが見られる。	○	交流により得られた情報・技能等を運営者・管理者・職員で共有することが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者については、見学に来てもらい一緒に食事をしたり、デイケアの帰りに立ち寄って交流したり、相談を重ねたりしながら、馴染みの関係を作るように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食材の下ごしらえや、食事の準備、後片付け、地域のことばや伝統料理の作り方など共に作ったり教えてもらったりしながら、それぞれの利用者の力量を活かし、支えあっている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの係わりの中からや、家族からの聞き取り、生活歴などから利用者一人ひとりの思いや意向をくみとるようにしている。趣味や嗜好なども含め把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの意見やケア会議で意見を出し合い、利用者の思いや意向を踏まえた介護計画を作成している。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見やケアチェックの中から状態変化時に、ケアの変更に努めているが、介護支援専門員が、他の介護職員と同じように介護担当を受け持っているために、ケアプランの変更が追いついていない。	○	状態変化に即した介護計画の見直しが求められる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望や家族の状況に応じて、受診の支援や買い物・理美容院の利用・墓参りなどの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望に応じて、かかりつけ医や、協力医療機関で受診できるように、連携をとり支援体制をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、終末期を迎えた場合の方針を家族や医療機関と協議し決定しようとしているが、職員の間での研修や体制作り取り組みはこれからである。	○	終末期ケアについての方向性を確定し、職員間での方針の共有が求められる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の介護の中で本人の自尊心やプライバシーを傷つけないように、言葉遣いや、入浴・排泄介助時など気配りをしている。また、職員は入職時に個人情報保護の観点から誓約書を提出している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のしたいことや気持ちを、表情や意思表示から汲み取り、起床・食事・入浴・散歩・美容室の利用・買い物などその人のペースに合わせた行動が取れるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランスを考えて、栄養士が作った献立に利用者の希望を取り入れて、菜園で取れた食材や頂き物の魚介類や野菜などを活かして、利用者と一緒に食事をつくり、同じものを楽しく味わっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的には決まっているが、利用者の希望に沿って入浴やシャワー浴ができるように支援している。かゆみ止めや健康づくりをかねて、グアバやヨモギの薬草風呂にするなど入浴の気分を引き立てる工夫もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞読み、短歌作り、季節ごとの飾りもの作り、野菜づくり、屋外活動・掃除や食事の準備などいろいろな場面でその人なりの役割・行動ができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望を聞き、ほぼ毎日散歩に出かけている。道の駅、商店街にも気分転換に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害をしっかりと理解し、鍵をかけない支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定も含めて年2回の防火・避難訓練を消防署の指導を受けながら実施している。地域自治会の自主防災組織図を活用し、自治会長の協力も得ている。消火器の点検整備や消防署への同報装置も整備し、非常食の備蓄もしてある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導のもとでの献立による食事をつくり、食べる量や水分摂取量にも配慮した支援をしている。心臓病や糖尿病の利用者にも医療機関や栄養士に相談し対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関口や共用空間には、「トラの尾」の鉢植えや、季節の活け花、木製のテーブルや長腰掛けなどが配置され、ドーム状のホールには高い天窓から調節されたやわらかい光が差し込み、居心地の良い空間となっている。七夕飾りもあり、季節感のある生活が工夫されている。不快な音や匂いもしない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や洋服タンスなど自宅で使用していたものを持ち込んだり、ホームで自分で作った作品を飾り、居心地よく過ごせる空間作りの工夫がしてある。		